



# 駿府と今川氏

第4回

## 「今川天下一苗字」と小鹿・瀬名氏の誕生

### 永享の乱の 今川範忠の軍功

今川氏は、守護・守護大名・戦国大名と長期にわたって存続した割には一族の派生が少なく、分布状況もあまり多くはない。その背景には、他の家には見られない特別な理由があったのである。その特別な理由というのは、永享の乱の後の、將軍義教から今川範忠に与えられた少し風変わりな恩賞であった。そこでまず、永享の乱について見ておこう。

將軍と鎌倉府のトップである鎌倉公方が一触即発の状態にあったことは、すでに三代將軍足利義満、六代義教の駿府下向のところで述べた通りである。しかし、決定的な戦闘状態には至らなかった。

対立は、鎌倉公方足利持氏と、関東管領上杉憲実の衝突によって始まっている。関東管領というのは鎌倉府のナンバーツーである。

永享の乱は、永享十年（一四三八）に始まり、將軍義教は、関東管領上杉憲実を支持し、信濃の小笠原政康、駿河の今川範忠らに出陣を命じている。このとき、幕府軍・関東管領軍の連合軍が鎌倉に攻め入り、その年の十一月四日、

足利持氏は金沢の称名寺で剃髪し、降伏した。ところが、將軍義教からの密命があったものであろう。翌永享十一年（一四三九）二月十日、上杉憲実の軍勢に攻められ、持氏は自殺しているのである。

### 「今川天下一苗字」とは

この永享の乱のときの鎌倉攻めで、戦功第一とされたのが今川範忠だった。普通ならば、恩賞として、滅ぼした鎌倉公方の支配地を切り取って与えるとか、將軍家秘蔵の甲冑とか刀剣が与えられるところであるが、

このときの恩賞は、「これから、今川という苗字は惣領家だけ名乗ることを許す」というものであった。私が「風変わりな恩賞」といったのはそれである。当時、そ

の家の家督は嫡子、すなわち惣領が継ぎ、それ以外の兄弟、庶子は分家する形となり、それまでは、分家した家も今川氏を名乗っていた。今川了俊の子孫たちは遠江に住み、同じように今川氏を称していたのである。ところが、このときから、苗字を住んでいる土地の名前に改める必要が出てきた。

遠江の今川氏の系統で、そのころ瀬名に住んでいた今川一秀が瀬名氏を名乗り、範忠の弟今川範頼も、小鹿に住んでいたことから、以後、小鹿氏を名乗るようになっていくのである。



▲瀬名一秀の菩提寺・光鏡院（静岡市葵区瀬名1丁目） 撮影：水野 茂